

番号	科	名称	天気	23年度観察数													観察月数	観察数合計	
				4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3				
				12	16	19	12	17	13	11	8	13							
1	カモ	カルガモ																0	0
2	ハト	キジハト	3		2	2	3	3	1	1	1							8	16
3	ウ	カウ																0	0
4	サギ	アオサギ																0	0
5	サギ	ダイサギ																0	0
6	カウ	ツツドリ																0	0
7	トビ	トビ													1			1	1
8	ウ	ツミ	VU															0	0
9	ウ	ハイトカ	VU															0	0
10	ウ	オオタカ	VU															0	0
11	ウ	ノスリ	VU	1														1	1
12	キツキ	コゲラ		1	1	1					1	1	1					6	6
13	キツキ	アケラ																0	0
14	キツキ	アケラ	1	1	1		1		1									5	5
15	ハヤブサ	チョウゲンボウ	VU															0	0
16	ハヤブサ	ハヤブサ	VU															0	0
17	モズ	モズ	VU															0	0
18	カラス	カラス																0	0
19	カラス	オナガ	NT	2	3	8	10		3		3							6	29
20	カラス	ハシボソガラス		1	3	3	6	1	20	4	3	3						9	44
21	カラス	ハシトガラス		2	7	6	7	3	11	12	7	4						9	59
22	シジュウカラ	ヤマガラ		1					1	1	1	2						5	6
23	シジュウカラ	シジュウカラ		9	10	2	7	1	4	22	10	17						9	82
24	ツルメ	ツルメ		2	1	1												3	4
25	ツルメ	イワツルメ	NT															0	0
26	ヒヨドリ	ヒヨドリ		8	21	15	13	11	2	38	25	23						9	156
27	ウグイス	ウグイス		6	4	3	3		1		3	2						7	22
28	エナガ	エナガ		1	18		2				9	13						5	43
29	メジロ	メジロ					6	6	4	14	10	10						6	50
30	ムクドリ	ムクドリ			6	17	8											3	31
31	ビタキ	シロハラ																0	0
32	ビタキ	ツグミ									6							1	6
33	ビタキ	ルビタキ																0	0
34	ビタキ	ジョビタキ										1						1	1
35	ビタキ	コサビタキ	VU															0	0
36	ビタキ	キビタキ								2								1	2
37	スズメ	スズメ							1									1	1
38	セキレイ	セキレイ																0	0
39	セキレイ	ハクセキレイ																0	0
40	アトリ	アトリ																0	0
41	アトリ	カラヒワ																0	0
42	アトリ	シメ																0	0
43	アトリ	イカル	NT															0	0
44	ホオジロ	ホオジロ	NT															0	0
45	ホオジロ	アオジ																0	0
観察種数 月 / 年				9	13	11	12	7	10	11	10	13	0	0	0	20			



月	23年度コメント
4	木々の葉が茂りはじめであり、鳥の姿を確認するのが難しい時期になってきた。その上、今日は強風が吹いており、鳥の出は良くなかった。ウグイスの囀りは多く聞こえた。近くで囀っているものの、その姿は見つけられなかった。ガビチョウの声も2か所で聞こえた。アオゲラの声は聞こえたが、姿は確認できなかった。
5	アオゲラが直近で大きな声で鳴いていたが姿は確認できず、樹木の葉が生い茂り、暑い日差しを避けて日陰になっていた。エナガの家族が18羽まとまって飛んでいた。羽毛がボサボサのヒヨドリ幼鳥を確認した。確実に繁殖している証である。上空を飛翔していったノスリを確認したが、武蔵台公園では初認である。
6	樹木の葉が一段と濃くなり、鳥の姿を目にしにくい。ウグイス、ガビチョウは声が良く通り、しっかりカウント出来た。ムクドリも集団で飛んでいる姿、樹上からの声で存在を知らせてくれた。コウソウに小さな実が緑やオレンジ色になっているもの沢山ついていて、それを目指して、ヒヨドリ、オナガが姿を見せた。子育てが一段落したのか、小鳥の声が少なかった。
7	今日は猛暑日で、11時で35度を越えた。暑さで鳥も鳴かず飛ばずの状況。樹木の葉も茂り、鳥の姿を確認するのが難しい時期になった。そんな中、羽根の色が薄いムクドリの幼鳥、頭の毛がボサボサなヒヨドリの幼鳥、口内が真っ赤なハシトガラスの幼鳥が見られた。抜け毛が目立つハシボソガラスがみられ、子育てが終わり、換羽が始まっているようであった。
8	観察開始から中盤までは、カラスの鳴き声と病院側フェンス奥でアオゲラの鳴き声が聞こえるだけで、全く鳥影なし。公園梅林付近の常緑樹(トウネズミモチやハクウンボク)内にメジロ、ヒヨドリを確認。終盤、道路周辺に外来種のガビチョウ4羽を確認。繁殖した模様。最後に目の前の枝でヒヨドリがセミを捉えて枝に打ち付けて食べようとしている様子が観察できた。
9	残暑が厳しく、鳥たちも日陰で耐えているのか、声も姿も少ない。畑の端にスズメ、西側の松林近くでヤマガラが久しぶりに姿を見せてくれた。終盤にミズキの実が紫色から黒く変化している木にハシボソガラスとハシトガラスが入り替わり立ち代わり現れた。一茎へし折り、地面でゆっくり食べようとしたが少し大きい仲間が横取りをする瞬間があった。少ない餌を巡る攻防かもしれない。
10	渡りの途中で立ち寄ったキビタキの姿が見られた。キビタキが武蔵台公園で観察できたのは、記録に残っておらず、初めてであった。シジュウカラ、メジロ、エナガの混群が2か所で見られた。アオゲラの声も聞こえたが、姿は確認できなかった。ヒヨドリが戻ってきて、鳴き声だけでなく、飛び回る姿が目立った。
11	立冬というのに気温が20度、暑いくらいでした。公園の樹木もまだ葉を落としていなく鬱蒼としたままでした。野鳥はというと、ヒヨドリの鳴き声とカラスの声が目立っていましたが、そんな中、ウグイスの地鳴きを聞きながらシジュウカラ、メジロ、コゲラの混群に出会えました。アカマツ林の中で確認された巣は、外来種のガビチョウの巣と思われる。
12	クズの葉や蔓、豆も枯れて、産毛のように輝いているところにヤマガラが2羽飛んできた。コゲラを先頭にエナガ、メジロ、シジュウカラが飛び回っている。エノキの実を求めて、ツグミが行ったり来たりしていた。イヌシデの実を両足で抑えて突く(シジュウカラが見られた。ジョウビタキが枝に止まり、地面に降りては戻るを繰り返していた。空が開け、トビがゆったり飛んでいるのが良く見えた。
1	
2	
3	

注1: 表の最下段は月ごとの観察種数と年間の観察種数。  
注2: 名称欄記号は、2023年度東京都レッドデータ、北多摩のカテゴリ表示。

外来種

観察月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
カラハト	32	6	2		4	2	6	2				
ガビチョウ	2	2	2	2	4	3	1	3	1			
ソウシヨウ												
ホソセイゴ												

レッドリスト表示について

名称欄に東京都レッドリストのカテゴリ表示を行った。カテゴリ表示の条件を以下に示す。

2023年版 東京都レッドリスト  
対象地域 北多摩の評価による

カテゴリ名称	表示	基本概念
絶滅危惧 A類	CR	ごく近い将来における野生で絶滅の危険性が極めて高いもの
絶滅危惧 B類	EN	A類ほどではないが、ごく近い将来における野生で絶滅の危険性の高いもの
絶滅危惧 類	VU	現在の状況をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧 類」のランクに移行することが確実と考えられるもの
準絶滅危惧	NT	現時点での絶滅危険度は小さいが、生育・生息条件の変化によっては「絶滅危惧」としての上位ランクに移行する要素を有するもの
ランク外		前回2010年版に掲載されていて今回の改定によりレッドリストから外れた種
非分布		主要な生息地でないという理由から対象外とされた種